

広報



# しら



## 行列をつくり

サイギ サイギ

脇元岩木山神社大祭、お山参詣が去る九月二十一日に行われ、約三百人の農漁民が野菜や魚などを供えて、五穀豊じようを感謝しました。  
(関連記事五面)

昭和54年 9.10月号



# 社会福祉協議会を

## みんなのものに

第一回市浦村社会福祉大会は九月八日午前十時、市浦村基幹集落センターに開催者百六十名が出席して開かれました。

はじめに、物故社会福祉関係者に対し黙とうをさされたあと、白川治三郎大会長から「混迷する社会の中にあつて、しあわせを当然の権利として得るためには、地域の二の

に即応した対策が必要である。独立発足させた村社協をみんなの手で発展させ、住みよい明るい村建設のため努力してほしい」とあいさつがありました。

続いて、本荘珍雄事務局長が「田相内診療所を村社協の事務所を利用してから、会員数も八百七十名となり、八十

二の加入率となつてゐる。また、中野潤木造野助役(元

県社会福祉協議会事務局長)が講演し、「社会福祉協議会はその基礎づくりが大切であり、市浦村においても何か一つの目標をさぐり、と結びました。

■表彰者は次のとおりです。漆迎寺住職中井邦登、漆迎寺学生会、市浦商工会青年部、市浦地区労働会実行委、旭開拓野暮組合、磯松老人クラブ、十三工業株式会社、小

治、三和サチ、東光山工藤泰座



社会福祉協議会をひとりどりのものとし、住みよい明るい村にしよう。と語りあいました。

# 永年勤続者を表彰

## 市浦商工会



永年勤続ごろうさんでした。これからは商工発展のため頑張ってください。とひとりどりに表彰しました。

ち子、中島八重、本荘澄子、大沢キヌヨ、若山和子、伊井ツセ子、豊島登美枝、伊南子ヤ

■六年以上勤続者

浜田正光、古川君子、浜田昭義、梶浦清、加納哲子、秋田谷詔子、三和忠正、成田俊二郎、伊南アキエ、宮本栄一、豊島正治、温浅ノメ、梶浦ミナ、吉田キキ、大沢兼義、宮本忠造、白川

みえ、佐野長之助、白川達夫、佐野ヒロ子、工藤務、太田昭美、相内章次郎、古川司、秋田谷タロ、白川きみ、高橋ミヨ、成田和枝、小倉不二男、小倉美和子、新岡ハルエ、藤田キク、漆

道子、伊藤兼造

■十年以上勤続者

小田桐リマ、秋田谷清、佐藤辰次、三浦貞夫、高橋義英、伊南みね、成田とさ、秋田谷福治、奈良滝雄、大沢由勝、佐藤清八郎

■十六年以上勤続者

伊南義道、工藤正美、佐藤健一

■二十年以上勤続者

越野清志、佐藤良五郎

市浦商工会(白川真一會長)では、地域の商工振興事業の一つとして、このほど基幹集落センターで、管内事業所の優良従業員を対象に表彰式を行いました。

はじめに、白川商工会長から「これからも永年勤続し、地域のため活躍してほしい」とあいさつがあったあと、一人ひとりに表彰状と記念品が手渡れ、表彰者を代表して、工藤正美さんが「表彰の喜びをかみしめ、一生けんめい頑

張ります」と謝辞をのべました。また、来賓として出席した白川治三郎村長も、管内の商工振興発展のため、これから頑張ってください」と表彰者を激励。

このあと、相内芸能保存会一行による民謡手踊りを楽しみながら一日を過ごしました。

■表彰者は次のとおりです。

■五年勤続者  
崎竹次、古川喜本好、宮レツ、高木ムチエ、種田る

# 駒踊りも飛び出し

## にぎやかに



海側から見る「もや山」はどことなく岩木山に似ており「小岩木山」として、あがめられ、脇元地区の「シンボル」として親しまれています。もや山は、高さ一五・一四メートルあり、市浦村史によると、今から約八百五十年前にこの

地方に権勢を誇った「安東一族」の一人倭氏季の時代に弘前市十腰内の巖鬼山から分霊し、社を建てて「小巖鬼山」としてあがめた……。ところが、新しくは、江戸時代に岩木山神社と名称を変えたが、戦前まで岩木山の選擇所

として存続してきた由緒を持ち、これまで絶えることなく地元住民によってお山参詣が行われてきたものです。二十一日行われたお山参詣では、市浦村のほか中里、金木、小泊方面から老若男女約三百人が集まり、笛や太鼓のはやしでこへいや、ノボリを立て、サイギギ・サイギギ……と行列をつつて険しい山道をたどって山の頂上へ登りました。また、この日は朝早くから脇元駒踊り保存会や脇元小の児童約七十人が南部地方に伝わる駒踊りで村内を回り、特設舞台では、芸能発表大会や登山ばやし大会などでお山参詣に彩りを添え、日が暮れるまでにきわまりました。

(写真) 南部地方に伝わる駒踊り。今ではもうお山参詣には欠かせないものどとなつた。

(写真) 南部地方に伝わる駒踊り。今ではもうお山参詣には欠かせないものどとなつた。

## 脇元・磯松地区の葛西さん 米寿おめでとう



たん えん  
葛西重蔵さん  
米寿を迎え



多治見焼の湯呑を囲まれ喜びの葛西さん夫妻

## 交通事故防止に よい子たちがパレード

最近、子どもと老人の交通事故が多く発生していますが、市内保育所ではこのほど、園児鼓笛隊により村内目黒き通りを交通安全パレードをしました。

母の会々員も多数参加し、交通安全を呼びかけましたが、真赤なコスチュームを着けたパトロールや元氣いっぱい行進する鼓笛隊のよい子たちに沿道からは盛大な拍手がおこられ、車を止めた運転者も「安全運転をします。」と約束していました。



写真 笛や太鼓にあわせながら進行、交通安全を呼びかけるよい子たち

郵政省では、簡易保険事業の一つとしてことしも、米寿を迎えた人たちに記念品を贈りました。この事業は、昭和四十四年から始めているもので、対象者はそれぞれ大正、昭和の困難な時代を社会の中堅として活躍し、簡易保険事業にも協力しているのので、米寿を祝いあわせて感謝の意をあらわしているものです。本村では、磯松地区の葛西重蔵さんと脇元地区の葛西重蔵さんがめでたく「米寿」を迎え、三和孝徳相内郵便局長から記念品として多治見焼の朱泥の湯呑が手渡されました。

# 交通安全村民大会



間山金木警察署長が交通事故の現況を説明した。

第三回交通安全市浦村民大会は九月十二日相形児童館に関係者約百人を集めて開催しました。大会は、交通事故犠牲者に対して黙とうをささげたあと、交通安全運動に積極的に参加協力し、事故防止活動が続いている市浦森林署と秋田谷多喜野さんを表彰したに続き、白川治郎、郡大会長が「事故件数、傷者とも大幅に減少し、死亡事故「ゼロ」の記録を続けていくことは村民が一体となつて事故防止に立ち上つていからだ。今後も死亡事故「ゼロ」の記録を伸ばし事故のない明るい村づくりしよう。」とあいさつしました。

間山重信金木警察署長からは、交通事故の現況報告があり、市浦管内では十三地区での発生が最も多く、次に磯松地区となっている。いずれも家の建て込んでいない見通しのよいところで多く発生している。このことは無理なスピードの出しすぎが原因である。死亡事故「ゼロ」四九九年達成継続中であり、この記録を千日、二千日へと伸ばしてほしい。」と統計がみえた、説教分析と実例を引き出し、説明しました。

続いて各機関団体の代表から力強い交通安全宣言がありました。また、三和久村議会議員が議長代理として祝辞のべたあと、交通安全協会の白川孝治市浦支部長が大会宣言をして大会を終わりました。そのあと、参加者全員で村内をパレードし、交通事故防止をうたったえんじ。

## 交通安全宣言

各関係機関団体代表が、交通事故防止を呼びかけ交通安全宣言をしました。



役場代表 博 市民の公僕として、その使命の重大さを深く認識し、交通安全体制の確立を図る。



相内小児童会長 工藤 達也 子どもの事故から守るため、三ない運動と三指の誓いを守るようになる。



市浦署 林署官 夫 小学生の手本として、幼児や老人の援助者として、よりよい交通道徳を身につける。



市浦農協代表 鳴海 萬 暴走、飲酒、無免許運転は絶対しないし、仲間にもさせないことを誓います。



相内保育所会長 白鳥クラブ代表 鳴海真紀子 学校のきまりをよく守り、道路はきちんと右側を歩き、とび出しはいたしません。



市浦中 生徒長 黒川 史章



市浦村 建築長 黒川 敏 交通安全活動を積極的に進め、安全で明るい職場づくりにつとめます。



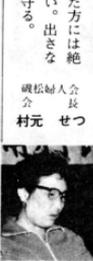
老人クラブ会長 佐藤 慶治 注意一秒けが一生、注意はし過ぎることはない。交通ルールをかみしめよう。



郵便局代表 三和 悦穂 交通道徳の向上につとめ、交通法規をよく守り、悲惨な交通事故絶滅を期す。



十三工業(株) 竹内彦次郎 車は走る凶器であることを認識し、交通ルールを守り無事故の職場をつくります。



磯松婦人会長 村元 せつ



村内各関係機関、団体代表が交通安全宣言をしました。